



## 学芸員だより no. 1

オリヴィエーロ・ディリベルト（望月紀子 訳）『悪魔に魅入られた本の城』晶文社、1999、149頁。

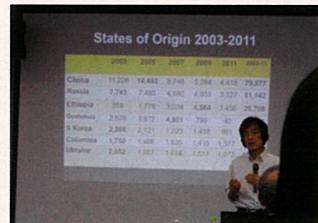
今春、ある国文学者の蔵書が話題となりました。地元新聞曰く、地方の公共図書館に寄贈された図書が「10年間にわたり放置され、寄贈者の要請を受けて市教委が昨年3月に返還していた」というのです。古書を一般利用可能な状態にもっていくために、時に新刊本を購入する以上のコストがかかることや、自館で購入した本ですら恒常に廃棄されるということは、もっと知られてよいと思います。中村博士はかつて松江名誉市民を授与された際にご自身の本を市立図書館に寄贈されましたが、それは新品の本であったと当時の新聞は伝えています。もうひとつ、最近鳥取のある図書館で貸出業務によって痛んだ本たちの展示が行われました。意図せず汚されて返却されるものだけでなく、悪質なものとしてはマーカーなどで線をひかれたり、切り取られたり紛失されたりしています。

ノーベル文学賞の受賞者ですらその本は散逸しています。本書の主要人物、古代史家テオドール・モムゼンはその著書『ローマ史』でノーベル文学賞を受賞した19世紀を代表する歴史家の一人ですが、その蔵書は、火事や盗難、寄贈先の図書館員に売却されたりなどして結局、散逸してしまいました。本が、わたしたちが意識することによってはじめて保護されることを考えるならば、中村博士の蔵書を管理していくうえで、記念館の重要性を改めて申し上げるまでもないでしょう。今後、記念館が中村博士の慈しみの心に触れたいと思う人にとっても、博士の開拓された学問を志す人にとっても、常に立ち戻るべき場所になれるよう、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 「中村元記念館友の会」会員限

定交流会が開催されました。

2017.5.28(日)



初めてとなる今回の交流会では、島根大学法文学部の出口顕教授・副学長をお招きし、「北欧の国際養子縁組と越境する家族形成」と題して、ご講演いただきました。講演では、最初に「人種」という言葉に科学的根拠は薄く、文化人類学ではほとんど使われていないという話から始まりました。シングル（独身）、同性のカップル、そして生物学上の「本当の」子供がいても養子をとる場合もある実例が報告され、養子を出す理由として貧困や宗教的な理由による中絶禁止が挙げられ、受け入れ側の理由としては、親の老後は兄弟全員で世話ををするという「北欧」の社会的な背景があること、多くはキリスト教的・人道的理由から行われるということが説明されました。

中村元記念館  
友の会  
入会のご案内

中村元記念館では、東洋思想の巨星 中村元博士の偉業を伝え、34,000点を超える博士の蔵書の調査・整理、収蔵品の管理、東方学院松江校運営など、幅広い活動を行っております。

当館の活動をご理解、支援いただき、また、会員同士の親睦を図る友の会に入会いただけますようご案内いたします。会員には、ミュージアムショップや東方学院松江校の割引等、各種特典があります。

いまお申し込みをされますと、平成29年3月末日までの有効期限となります。  
(お申し込み先・お問い合わせ先) 特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所  
「中村元記念館友の会」事務局まで TEL 0852-76-9593/FAX 0852-76-9693

発行／平成29年10月 発行所／NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所

# 中村元記念館

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060番地  
松江市役所八束支所2階

TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

E-mail: info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

URL: http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

Facebook: https://www.facebook.com/nakamurahajimekinenkan

■開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで） ■入館料：無料

■閉館日：月曜日、夏季休館（8/13～8/15）、年末年始（12/28～1/4）、  
蔵書整理期間



# 中村元記念館通信 第11号

平成29年10月発行 〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060番地 松江市役所八束支所2階 TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693 E-mail: info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp



絵：中村元(1925年(大正14年)～1930年(昭和5年)頃作成)

## 東方学院松江校 & 展示情報

東方学院松江校のガイダンスを実施いたしました。2017.4.15(土)



昨年度に続き、今年も多くの方に“学びたい”と思っていただけるような講義を沢山取り揃え、先生方による講義の詳しい紹介を行いました。

ガイダンス終了後の先生方と研究会員の交流を兼ねた茶話会では、ガイダンスでは聞けなかった、講義についての踏み込んだ質問や、日頃疑問に思っていることなど、それぞれ思い思に会話を楽しまれました。



中村元記念館クローズアップ展  
「中村元博士とネパール王室」

大好評開催中！

ネパールは、ブッダの生誕地であるルンビニがあることでも知られていますが、今回は、ネパール王室（当時）と中村元博士との交流を伺うことができる資料を展示します。

そして、ネパールと「法華経」の意外なつながりも？

中村博士に関心のある方は是非お越し下さい。

展示期間: 7月4日(水)～10月31日(火)

展示時間: 10:00～18:00 (最終入場17:30)

図書室ミニ展示 No.3 ~2017年10月31日



中村博士の蔵書の中から、20点を選び図書室で展示中です。インドの思想や文学と、日本の仏教に関する図書や雑誌、巻物、コミックなど様々なタイプの資料で、いずれも初公開となります。ご来館の際はぜひご覧ください。

夏休みの  
子供ボランティア

今年は7月25日（火）に5年生の女の子が1名ボランティアに来てくれました。蔵書整理のためのラベル貼りや、中村元記念館印を押す作業をしたり、さるすべりコーナー（児童書コーナー）に本を並べてもらったりしました。

「中村元博士のことは本を読んで知っていたけど、今回展示室と書庫棟を見学して新たにたくさんのことToStringができた良かった」と感想を言ってくれました。

最後には、記念館の理事長からボランティアのお礼と、ボランティア参加証明証をお渡しました。

子どもボランティアさん、どうもありがとうございました！

職場体験生が来て  
くださいました！

6月20日（火）から22日（木）の3日間に、八束学園の9年生（中学3年生）の生徒さんが1名、職場体験に来てくださいました。

開館準備や、書類の修正作業などの一般事務をはじめ、中村博士の蔵書のラベル装備などを含めた図書館業務、次回の企画展に向けた展示室の配置変えなど、色々な仕事を体験していました。

《平成28年度寄付者ご芳名》

みんなさまからの温かいご支援、心より御礼申し上げます

<個人>	
桜井 俊彦	様
大塚 鐵雄	様
岡 潔	様
岡 紫乃	様
岡 道太	様
岡 晃	様
岡 英二	様
岡 葉子	様
前田 専學	様
古瀬 修一	様
梶谷 聰	様
荒木 光哉	様
山本 芳郎	様
山本 廣基	様
渡邊 省三	様
足立 三樹夫	様
北島 清秀	様
松平 直壽	様
野津 一成	様
河野 真道	様
三代 隆司	様
籠 晓子	様
山口 弘江	様
松尾 淳成	様
藤岡 大拙	様
奈良 康明	様
糸 悟震	様
中村 祥江	様
入澤 道子	様
<団体>	
清水谷 圭	様
齊藤 省舜	様
中尾 了信	様
星 乘昭	様
福嶋 泰夫	様
青柳 晃一	様（東京大学名誉教授）
新和設備工業株式会社	
真宗大谷派	正應寺（松江市中原町）
株式会社	ウッドスタイル
中浦食品株式会社	
島根日産自動車株式会社	
株式会社	ユニコン
總本山	仁和寺（京都市右京区）
株式会社	太陽電機製作所
株式会社	マツダオートザム松江
有限会社	酒の槇戸天狗堂
島根電工株式会社	
宗教法人	妙法院（京都市東山区）
正蓮寺	（出雲市下古志町）
華藏寺	（松江市枕木町）
株式会社	ミック
株式会社	松文オフテック
カナツ技建工業株式会社	
心身教育研究所	
株式会社	谷口印刷
宗教法人	明顕寺（出雲市今市町）
眞光寺	（島根県松江市奥谷町）
株式会社	メディアスコープ
清水寺	（京都市東山区清水）
西福寺	（邑南町原村）
株式会社	島根銀行
まるなか建設株式会社	
宗教法人	園城寺（大津市園城寺町）
念法眞教	
宗教法人	宗玄寺（島根県出雲市斐川町）
株式会社	エブリプラン
一心寺	（大阪市天王寺区）
一畑寺	（出雲市小境町）

第3回中村元文化賞は、以下の企業に協賛いただいております。

山陰酸素工業株式会社、堀田石油株式会社、美保テクノス株式会社、株式会社山陰合同銀行  
多大なご支援ありがとうございました。

『ヨーガと  
チャイを楽しむ午後』



6月21日の国連によって定められた「国際ヨーガの日」にちなみ、記念館では6月18日（土）に『ヨーガとチャイを楽しむ午後』というイベントを企画し、30人近くの方にヨーガとチャイを楽しんでいただきました。

第一部は、八束公民館等でヨーガ教室をされている山本紀子先生をお招きして、ヨーガ教室をしていただきました。先生のヨーガと、優しい声で、参加者は心も体もリラックスされたようでした。

ヨーガが終わった後は、記念館のセミナーハウス、通称「はじめハウス」でインド・アーンドラプラデュシュ州出身のマドゥリ・カシバートラさんが作られた本場のチャイを飲みながら、お話をしました。マドゥリさんからインドの文化についてのお話が聞けて、参加者の方も楽しんでおられるようでした。

研究員コーナー 「定期講座でチベット仏教求法僧・能海寛をとりあげて」

岡崎秀紀（中村元記念館東洋思想文化研究所研究員・能海寛研究会長・東方学院松江校講師）

日本人初の入蔵者である能海寛（1868-1901、浜田市金城町出身）の34年間の短い生涯は、ひたすら仏教と世界を求めた人生でした。京都西本願寺普通教校（明治19）、慶應義塾（明治23）、哲学館（明治24）で、仏教学はじめ、英語、東洋哲学などを学びました。学びの場には、世界事情や仏教研究の最前線を知る、哲学館創立者・井上円了、日本サンスクリット学の祖・南條文雄などの学者がいました。能海は明治26年『世界に於ける佛教徒』を出版し、新佛教徒運動、チベット探検とサンスクリット經典の研究の必要性、仏教の革新と世界仏教などを提言しました。語学をはじめ周到な探検準備を行なって、明治31年いよいよチベットに向けて日本を出発します。明治32年8月、寺本婉雅とともに四川省巴塘に達し、日本人初の入蔵者となりました。翌年には青海省からの入蔵を目指します。最終的に、明治34年5月雲南省奥地の徳欽で消息を断ちました。しかし、能海は般若心経西蔵文直訳の梵藏漢英对照譯出をはじめ、チベット仏教經典の収集、フィールドワークなどでは貴重な学問的成果をもたらしました。

彼が仏教界に残した提言は、今も生きています。中村元博士は能海の壯絶な生涯と業績に感銘を受けました。特に能海著『世界に於ける佛教徒』は「内容主張が明治時代としては断然新しい」と指摘され、「能海の思想はむしろ今後の人々が耳を傾けて傾聴すべきものがあり」、「現在に生きるわれわれに叱責するかのごとくに迫って来るものがある」と評されました。

2016定期講座では20数年の蓄積から研究トピックスを紹介しました。能海の英語学習の経歴と英文機関誌の発行、仏蹟復興運動のセイロン人A.ダルマパーラとの出会い（明治22）、日本アルプスの紹介者W.ウエストンとの出会い（明治23）、明治26年来県したアイルランド人仏教僧C.フォンデス、西洋チベット学の祖ショーマ・ド・ケレス、能海の最期を語ったフランス人麝香商人G.ペロンヌ、河口慧海はじめ日本人入蔵者十人の物語などです。新たに掘り起こした研究成果をお話することができました。日本仏教を世界仏教たらしめんと奮闘した能海の生涯を振り返ることができました。

2018年には能海寛生誕150周年を迎えます。寛研究会では記念行事（法要、講演＆シンポジウム、写真展、祝賀会など）を企画しています。中村元記念館で能海の著作・資料のミニ展示会が開催できないかと、検討しています。これを契機に、能海の業績を国内、海外へ発信できたらと、念じています。最後になりますが、2017年度定期講座では、能海著『世界に於ける佛教徒』を取り上げ、能海が提起した考え方や思想を深めたいと思っております。中村元博士の世界仏教につながる精神を発見できるものと期待しております。

●中村元記念館 新研究員の紹介 2017.6.9(火)

6月9日（火）に辞令交付式が行われ、新たに岡宏研究員が中村元記念館の研究員に就任しました。

今後は、それぞれのテーマで研究活動を行い、中村元思想文化カフェ等で研究の成果を報告してもらいます。

**岡 宏（日本仏教・生命倫理学）**  
鎌倉という時代を生きた法然は、親鸞へ往生行としての念佛を伝えた。すなわち、念佛とは被救済者である私が救わっていく“はたらき”ということになります。つまり、仏の“慈悲”です。あらゆる仏は“慈悲”を具現するために智慧を成就されたといえば仏教的ではないと叱責されるかもしれません、中村元博士の『慈悲』を読んでおりました、斯様に思えてきます。この“慈悲”を中心命題に捉えた道泰訳『大丈夫論』というテキストを現代語訳することを中東文研における研究テーマにして、医療・福祉そして宗教をつなぐ方途を考えていきます。本州西端の山陰・萩原です。山陰の思想文化振興の末席に加えていただきました。これから、よろしくお願いします。



岡崎秀紀先生の定期講義「能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む」は、10月～3月の第4土曜日に行ないます。詳しい講義内容は、記念館までお問い合わせください。